

榊原病院 Monthly

Vol.44 2020.October

独立行政法人国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

院長

村田 昌彦(むらた まさひこ)

1962年生まれ
1991年富山医科薬科大学医学部卒
1996年同医学部大学院卒
2014年国立病院機構北陸病院精神科部長
2015年国立病院機構榊原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榊原病院長就任。
日本司法精神医学会理事。



病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

【病院薬剤師のお仕事～縁の下の力持ち～】

薬剤科長 竹内 正紀

今年4月に新米薬剤科長として当院に赴任して半年が過ぎました。私は、大学の薬学部を30年前に卒業して製薬会社に勤務し、その後は薬剤師として臨床現場で仕事がしたくて大学に戻り、1年間の臨床研修を経て国立病院に再就職、その後民間病院、保険調剤薬局勤務を経て、再び国立病院機構に戻って来たという経歴を持っています。

現在、女優の石原さとみさんが主演されている「アンサンブ・シンデレラ～病院薬剤師の処方箋～」という病院薬剤師が主役のテレビドラマが放映されています。これまでの医療ドラマではスポットライトを浴びることのなかった薬剤師の仕事に注目したヒューマンドラマです。病院に薬剤師がいることは知っているけど、実際にどんな仕事をしているのか、あまり知らないという方が多いのではないのでしょうか。「アンサンブ (Unsung)」とは、「称賛されない、知られざる」という意味です。

確かに薬剤師は医療現場では脇役的なイメージがあり、決して目立つ存在ではありませんが、患者さんと向き合う顔が見える身近な存在でありたいと思っています。私の大学時代の恩師からは、「患者さんのために、薬あるところに薬剤師あり！」と教わってきました。

当院では、通常の治療では効果が認められない難治性統合失調症に対して、クロザピンという薬剤を使用する治療に力を注いでいます。優れた効果がある反面、副作用や相互作用（飲み合わせ）など、注意しなければならない事がたくさんある特殊なお薬でもあります。薬剤師もチーム医療の一員として入院から外来まで関わらせていただいております。

榊原病院には、正面玄関を入ってすぐの所に薬局があります。ガラス越しに我々の仕事ぶりをご覧になれます。近頃、科学実験でよくテレビに出演されている米村でんじろう先生によく似た顔の白衣の人物が見えたら、それが私、竹内です。診察の時に薬の話がなかなか聞けないと言われる患者さんも多くいらっしゃいます。お薬に関するどんな些細な疑問でも結構です。お声掛けいただければできる限り対応いたしますので、気軽にお尋ねください。まだまだ新型コロナウイルスが猛威を振るう中、疲弊した医療従事者に対して、「ありがとう」という労いのエールを励みにしつつ、感謝の気持ちを忘れず薬剤師という職務に日々精進していきたいと思っています。

トピックス



- 現在、建物の老朽化及び機能向上のため、病棟改修工事を行っております。病棟を入れ替えながらの改修となり、工事完了は令和3年5月を予定しています。



診療科

- ・ 一般精神科
- ・ アルコール・薬物依存症
専門外来
- ・ ところのリスク外来

病床数 176床

- ・ 精神科病棟 158床
- ・ 医療観察法 18床
- ・ 認知症ユニット



電車・バス/ 近鉄久居駅下車、三交バス（榊原温泉口駅行）にて約30分。
榊原口バス停下車徒歩約10分。

自動車/ 久居インター（伊勢自動車道）より西へ約20分

マイクロバス/ 久居駅より直通バス（約25分）

地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和2年9月までに全症例は107例となりました。新規導入は7月0例、8月1例、9月1例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



認知症医療・アルコール・薬物依存医療・こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈アルコール・薬物依存医療〉

適正な飲酒量とはどの程度かご存知でしょうか。「節度ある適度な飲酒」とは、純アルコールで1日約20グラム程度、つまり日本酒なら1日1合、ビールなら大瓶1本だけなのです。日本酒3合では健康に悪影響の出る「多量飲酒」（健康日本21）と言われています。もし減らすことが難しいという方がおられましたら、外来・入院での治療プログラムにてご協力させていただきます。お一人で、ご家族だけで悩み解決しようとするのではなく、まず専門スタッフへお気軽にご相談下さい。ご自分だけで抱えずに相談することが、病気を回復する第1歩です。

〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われていています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内

デイケアは新型コロナウイルス感染拡大防止策をとりながら、運営しています。具体的には、手洗いや消毒の徹底、3密の回避などを行っています。そのために、プログラムの参加人数を制限させていただくこともあります。ご不便をおかけしますが、互いに安全な距離を保ち、健康に過ごせるように、皆様のご協力をお願いします。

秋は気候がよく、榊原地区の自然を味わうのに最も適した季節といえます。さわやかな空気のもと、散歩や軽い運動のプログラム回数を増やしています。コミュニケーションの練習や、感情コントロールのワークも継続しています。病院ホームページに毎月のプログラムを掲載していますので、ぜひご覧になってください。



(左)10月の調理は、豆腐ハンバーグ・ネギソースでした。とてもおいしくいただきました。

(右)昼食の時間は、このように距離を置いて座ります。また対面での着席をせず、感染予防に努めています。

栄養コラム



「日本人の食事摂取基準2020」 高齢者のたんぱく質目標量の下限 重要度が高いことから引き上げ

国民の健康保持のために摂取することが望ましい栄養量の基準を定めた「日本人の食事摂取基準」が昨年、2020年度版に改定されました。その中の一つをご紹介します。

今回、高齢者のたんぱく質の目標量が、エネルギーに対して13%～20%だったところ15%～20%に変更されました。これは、加齢に伴って筋筋量が減少してしまうことと深く関係しています。

栄養素としての重要性から下限値が改定されました。食事面では特に、良質なたんぱく質といわれる、肉・魚・卵・豆腐などを中心にとると、効率よく筋肉や血液の原料になります。たんぱく質不足にならないように毎食取り入れるようにこころがけていきましょう。

帰ってきた！～健康睡眠12ヶ条～ (本稿は榊原病院Monthly Vol.27～39の再掲です)

第五条 年齢や季節に応じて、昼間の睡眠で困らない程度の睡眠を。

必要な睡眠時間は人それぞれ(みんな違って、みんないい)

睡眠時間は加齢により徐々に短くなります。

年をとると朝方化・・・男性は朝方化がめだつようになります。

